

かめやま若者未来会議視察報告

1. 実施日

平成 30 年 10 月 20 日(土)

2. 視察先

篠山チルドレンズミュージアム
〒669-2545 兵庫県篠山市小田中 572
代表 吉田 真知子

3. 参加者

6 人 (メンバー6 人、事務局 2 人)

4. 行程

時間	内容	経路	移動手段
7:50	亀山市発	新名神高速道路 ～ 名神高速道路 ～ 京都縦貫自動車道	公用車
9:50	篠山チルドレンズミュージアム着		
10:00	視察開始		
12:00	視察終了		
	自由見学		
14:00	篠山チルドレンズミュージアム発		
16:45	亀山市着		
	解散		

5. 内容

【先方の対応者】

- ・株式会社Dreamaway(篠山チルドレンズミュージアム指定管理者)
代表取締役 吉田 真知子
- ・株式会社ZEROZIBA 取締役専務 米田 麻人

代表の吉田氏から、篠山チルドレンズミュージアムの事業に取り組んだきっかけやこれまでの経緯、事業推進の考え方等についての説明があった。また、米田氏は、篠山チルドレンズミュージアムでの勤務を経て友人と起業し、大学生を対象としたインターンシップや地域の児童を対象としたそろばん教室などの事業を展開しており、地域と若者の関わりといった視点からの話があった。両氏の説明を受け、かめやま若者未来会議のメンバーとの意見交換を行った。

この他、施設見学及び黒豆の枝豆収穫ワークショップの見学を行った。

【意見交換の概要】

- ・田んぼでの泥遊びや簡易な工作など、一見すると価値が無いと思われるような物事でも、実施してみると驚くほどのニーズがある。
- ・失敗を恐れずに、どうやれば上手くいくかを考え、まずは実行に移すことが重要。
- ・プログラムを考える際、子どもの「気づき」を大切にしている。情報を与えず、子どもが自ら考えて気づき、課題を解決していく仕掛けを意識している。
- ・丹波篠山の黒豆と言えば有名だが、黒豆は丹波地域で広く栽培されており、味の面から見れば篠山産を上回る地域もある。そうした中、黒豆といえば篠山という認知度を獲得しているのは、マーケティングや情報発信の成功によるものである。地域の埋もれた資源を効果的な情報発信でブランド化できる余地は十分にある。
- ・(インターン受入の経験から)田舎や地域での活動に価値を見出す学生は多いと感じる。例えば、かめやま若者未来会議のメンバー各々が一人ずつ大学生を呼び込み、活動に参加してもらえば、そこから活動の輪が広がっていく。
- ・事前にしっかりとコミュニケーションは必要であるが、地域のお年寄りは、意外とイベント等に協力してくれる。チルドレンズミュージアムでワークショップ等を行う際、講師役に地域のお年寄りを据えることが多い。紙飛行機づくりや裁縫など、内容自体は簡易であっても、参加者は「お年寄りとのコミュニケーション」に価値を感じている。講師を地域のお年寄りをお願いして、若者が運営を担うイベントを実施してみると良い。
- ・お年寄りとの協働も含め、今後は、より一層地域と連携した取組を充実させていきたい。地域の子どもの将来篠山に帰ってきてくれることが自分たちへの報酬であり、そうした視点での取組を継続していきたい。

(以上、概略のみ)

《視察の様子》

